

小寺小だより



自分大好き 友だち大好き 学校大好き

11月号

令和3年10月29日発行

神戸市立小寺小学校

「ビジネスツールの扱い方」考

いよいよ明日は、音楽発表会。緊急事態宣言が解除されて丁度1か月。感染予防対策にも余念なく準備し、保護者の皆様をお迎えしたいと思います。鍵盤ハーモニカやリコーダーが使えないというボリューム感のハンディもありますが、子供たちも先生たちも、実現可能なことを必死でさぐりながら練習を積み重ねてきました。どんな結果であれ、努力は嘘をつきません。演奏後は、盛大な拍手で労ってあげてください。

ところで、今月号のタイトル「ビジネスツールの扱い方 考」に違和感を感じた方もいらっしゃるかもしれません。「小学校のお手紙でビジネスツール？」確かにそうですね。その答えは後程。

学校では、PDCAの一環として学期末や年度末に「教育反省」を行い、教育活動のCheckを行っています。その中でよく課題として挙がる内容として「子供たちの落とし物が多く、あまり自分の持ち物を大切にしていけないのではないか」というのがあります。学年だよりなどで、よく「持ち物にお名前をお書きください」というお知らせをしていると思いますが、名前が分からないために、数多くの持ち主不明の落とし物がたまっていきます。

私は、子供たちにとって鉛筆や筆箱、ノート類は、ビジネスツールだと思っています。将来の自分のために、勉強をし、自己を高めていくのが小学生の仕事だと考えます。

先月も野球の話を書いたばかりなので恐縮ですが、イチロー選手が道具を大切にするのは有名ですね。昔、買ったスポーツライター児玉光雄氏の『イチローに見る「勝者の発想」』という本に、こんなことが書いてありました。

ビジネスツールは丁寧に扱う

イチローはバットやグラブを驚くほど丁寧に磨く。道具を丁寧に扱う習慣のないメジャーの選手にはこの光景が奇異に映る。物を大事にすることと、イチローの実績とは全く無関係ではないと、私は考えている。この習慣は野球を始めた頃に父宣之さんが教えた大切な儀式である。宣之さんは小学生のイチローに当時4万円もする高級グローブを買い与えている。「最高の道具で一生懸命練習しなさい。その代わり長持ちするようにきちんと手入れをするんだよ」と繰り返し説いた。もしもあのとき、宣之さんが安物のグラブを買い与え、道具の大切さを教えていなかったら、現在のイチローは存在していなかったかもしれない。当時、イチローは毎日丁寧にグラブを磨いて、それを枕元に置いて寝たという。その作業によって、イチローは「今日も楽しかった。明日も野球を一生懸命やろう」という気になれたのである。イチローは三振しても道具にあたらない。「打てなかった後に道具にあたるのもあまりいい感じはしませんね。だって、バットが悪いわけじゃないんだから、モノにあたるくらいなら自分にあたれ、と思います」自分の持ち物を大切にすることにより、「何事にも気持ちを込めて取り組む」という習慣がイチローに身についた。

少々長い引用になってしまいました。冒頭に書きましたように、子供時代のうちから「持ち物を大切にする習慣」を身に付けさせておくことは、将来、きっと役に立つと思います。イチロー選手のお父さんの言動からも、やはり小さいうちは、保護者の言葉かけや励ましが大切なのだと思います。習慣づけるのは大変ですが、今が大切な時期です。学校でも、物を大切にしよう指導しますので、ご家庭でもご協力よろしく願いいたします。

神戸市立小寺小学校長 大見 典之